

令和7年第7回鹿角市議会定例会 一般質問

□質問順位及び質問所要時間

12月 9日 (火) 午前10時～

1	佐	藤	大	介	議員	(30分)
2	綱	木	裕	一	議員	(45分)
3	宮	野	和	秀	議員	(30分)
4	丸	岡	孝	文	議員	(30分)
5	中	山	一	男	議員	(60分)
6	湯	瀬	弘	充	議員	(45分)

12月 10日 (水) 午前10時～

7	浅	石	昌	敏	議員	(30分)
8	安	保	真	希	議員	(30分)
9	奈	良	明	日香	議員	(30分)
10	成	田	哲	男	議員	(30分)
11	保	田	直	美	議員	(30分)
12	赤	坂	勲		議員	(30分)
13	栗	山	尚	記	議員	(60分)

□質問時間割当表

		10:00	10:30	10:40	11:25	11:55	13:00	13:30	13:40	14:40	14:50	15:35
12月9日 (火)	佐藤大介 (30分)	休憩 10 分 間	綱木裕一 (45分)	宮野和秀 (30分)	休憩	丸岡孝文 (30分)	中山一男 (60分)			休憩 10 分 間	湯瀬弘充 (45分)	

		10:00	10:30	11:00	11:10	11:40	12:10	13:00	13:30	14:00	14:10	15:10
12月10日 (水)	浅石昌敏 (30分)	安保真希 (30分)	休憩 10 分 間	奈良明日香 (30分)	成田哲男 (30分)	休憩	保田直美 (30分)	赤坂勲 (30分)		休憩 10 分 間	栗山尚記 (60分)	

令和7年第7回鹿角市議会定例会一般質問

順位	1	質問者	佐藤 大介	質問所要時間	30分	No.1
質問事項		質問要旨				
1 平和な世界を希求・堅持する地方からの取り組みについて		① 戦後80年を迎えた節目の年に、笹本市长の平和への考え方、地方からできる取り組みについて伺う。				
2 第7次鹿角市総合計画後期基本計画とまちづくりについて						
(1) コンパクトシティの実現に向けた取り組みについて		① コンパクトシティの実現に向けた方向性と取組内容、その実現を担保している計画等について伺う。				
(2) 財源確保及びふるさと納税の現状及び課題について		① 事業実施に係る今後の財源見通し及びふるさと納税の現状、課題について伺う。				
3 物価高騰対策及び地場賃金等について		① 本市における物価高騰対策について伺う。 ② 地場賃金及び市職員の賃金状況について伺う。				
4 給食における地場産品の使用状況等について		① 食育の推進、地産地消の推進、食材費高騰対策としての地場産食材の使用状況と課題、今後の方針について伺う。				

令和7年第7回鹿角市議会定例会一般質問

順位	2	質問者	綱木 裕一	質問所要時間	45分	No.1
質問事項		質問要旨				
1 将来を見据えた地域づくりについて						
(1) 市民の自立、共助の将来像について		<p>① 本市の人口減少は急速に進んでおり、働き手不足は既に深刻な段階にある。これまで「行政が当然やってくれる」と認識されてきた業務が、物理的に実施困難になりつつある。行政ができるに限度が多々出てくる中、市民が自立し、地域で助け合う力を伸ばすことで、まちの力は大きくなると考える。</p> <p>今後、これらの行政サービスをどのように維持し、どのような姿を目指していくのか。現状の課題認識と今後の方向性について伺う。</p>				
(2) 持続可能な地域運営について		<p>① これまで当たり前だった行政サービスを「すべて提供する体制」から、行政と地域、市民が役割を分担し合い、支え合う形への転換が求められる中で、インフラの維持や、安全確保をはじめ、様々な分野で、行政と市民の役割分担をどのように再構築していくのかは、市民との対話なしには進むことができないと感じる。</p> <p>このことについて、現在取り組んでいる内容、また今後取り組む内容について伺う。</p>				
2 除雪作業の体制改変について						
(1) オペレーター不足について		<p>① 本市では今年、9名の除雪オペレーターが引退し、そのうち7名の人員補充はできたものの、依然として2名が不足し、約60路線の一部で除雪体制の目処が立っていないと伺っている。また、除雪オペレーターの高齢化が急速に進み、今後さらに働き手不足の加速は避けられず、従来の体制維持が困難であると言わざるを得ない。現在、主要な除雪作業は通勤時間帯に間に合わせるため、深夜から早朝にかけて実施されているが、この深夜主体の作業が、高齢化したオペレーターへの負担、また新たな担い手の確保を難しくしている要因の一部であると考える。</p> <p>こうした状況を踏まえ、路線に優先順位を設定し、除雪作業の時間帯を柔軟化する。例えば、交通量が少ない路線は日中に作業を回す、迂回路が確保できる場合は除雪路線の廃線を含めた検討を行うなどといった体制見直しが必要と考えるが、市として路線分類や日中作業への移行可能性についての検討状況を伺う。</p>				

令和7年第7回鹿角市議会定例会一般質問

順位	2	質問者	綱木 裕一	質問所要時間	45分	No.2
質問事項		質問要旨				
(2) 自治会との協働作業について		<p>① このままオペレーター不足が進むと、更に踏み込んだ改善策が必要となり、その準備を進める段階に来ていると考える。</p> <p>例えば、自治会単位で除雪作業をやってもらうなどの必要も出てくると考える。今季は間に合わないとしても、来季以降でそうした取り組みを試験的に始めていく考えはあるか伺う。</p>				
3 有害鳥獣対策について		<p>① 今年の取り組みを振り返る中で、獣友会の皆さん限られた人数で尽力されていることを改めて感じるとともに、自衛隊の派遣により、現場の負担軽減のみならず、オペレーション上の改善点も見つかり、学びの多い一年だったと伺っている。</p> <p>しかしながら、その改善点に取り組むのも人手ありきという現状も改めて見えてきたと感じている。駆除活動については、狩猟免許が必要なものとそうでないものが混在しているようである。</p> <p>そこで、極力無理のない体制を構築するために、業務の「分業化」という考え方も一つの方向性としてあるのではないか。例えば、捕獲・駆除は狩猟免許が必要だが、檻の設置、駆除後の搬送や埋設、現場整理などは免許が不要といったかたちで整理することで、本業を抱える獣友会の方々の負担軽減につながることが期待される。</p> <p>こうした「負担を分け合う」ための分業化をはじめとし、どのような方向性で準備を進めようとしているか、市の考えを伺う。</p>				
(2) 対応職員に対する安全確保について		<p>① 今年11月1日に山形県南陽市においてパトロール中、市職員の方が熊に襲われ重傷を負う事件があった。</p> <p>本市においても、市職員、獣友会員は業務に非常に大きな危険を伴っているが、どのような安全対策を講じているのか伺う。</p>				

令和7年第7回鹿角市議会定例会一般質問

順位	2	質問者	綱木 裕一	質問所要時間	45分
----	---	-----	-------	--------	-----

No.3

質問事項	質問要旨
(3) 効果的な熊対策の周知について	<p>① 熊の被害が広がる中、対策方法が蓄積されている一方、その周知が断片化し、市民に行き渡っていないように感じている。</p> <p>例えば、ガラスを突き破る熊が市内でも報告されており、商工会などへは対策方法を周知されたとのことだが、市民にも大いに関係する部分であるにもかかわらず、その対策はメールによる単発での周知であったと思われる。</p> <p>今年は、異常なほど出没・駆除件数が多く、効果的な周知まで手を回すことは難しかったかもしれないが、来年に向け、一度整理し、市民一人一人に充実した熊対策方法を周知していただきたいと考えるが、市の考え方を伺う。</p>
(4) 熊スプレーの購入補助について	<p>① 昨年まで熊スプレーは特定の職業の方が購入するものだったが、今年に入り一般市民にとっても命を守る重要なアイテムとなった。</p> <p>熊スプレーも、性能が様々でカプサイシンの含有量や、有効射程距離にも大きな差がある。実績や信頼がおける熊スプレーだと、購入に25,000円前後かかり、経済的に大きな負担となる。</p> <p>こうした状況の中で、購入補助の実施について考え方を伺う。</p>
(5) 市職員の負担軽減について	<p>① 今年の熊の出没件数は900件を超え、職員はまさに昼夜問わず出没対応に追われたことと思われる。鈴木秋田県知事も、市町村対応が限界を迎えていると発言されていた。熊対策は今後も長期的に続くと考えられ、制度疲労が起きる前に、持続可能な対応体制を構築する必要があるのではないか。</p> <p>最近、他自治体では市民が行政LINEアカウント内にある通報フォームを活用して、市民が熊の目撃を通報し、行政が内容を確認し、住民へ危険情報を配信するという仕組みの導入例が増えている。市民がスマートフォンから位置情報・写真を添え素早く通報できるメリットがあり、自治体側も正確なデータの蓄積ができるほか、写真の位置情報から危険度判定を行い、一定条件を満たせば市民にアラートが自動で送信されることから作業を大幅に軽減できるメリットがある。また、LINE以外にGoogleサービスでもこのような仕組みは作れるようである。こうした仕組みの導入により、より正確な情報を蓄積することができ、今後の対策にも大きく寄与することができるが、市の考え方を伺う。</p>

令和7年第7回鹿角市議会定例会一般質問

順位	2	質問者	綱木 裕一	質問所要時間	45分	No.4
質問事項		質問要旨				
4 農業支援について						
(1) 兼業農家の推進について (2) 夢プラン応援事業の拡充について		<p>① 現在、農業者は年々減少し、新規就農者の数も数えるほどであり、今後は高齢の生産者が引退することで、生産者数は加速度的に減少することが考えられる。専業農家を増やす、育成することはもちろん重要ではあるが、まず「兼業農家」を増やすことが、本市にとって現実的で、効果の高い施策であると考える。兼業農家が増え、裾野が広がるほど専業農家へシフトする方も増えていくものと考える。</p> <p>また、農業生産者は単に栽培し、食料を供給するだけでなく、地域を管理し、人間の生息域を守るために「最前線」であると私は考えている。</p> <p>農業者の存在そのものが、市民の安全や産業、鳥獣被害対策の基盤になっており、農地の管理が進むことで、草刈りによるバッファゾーンが確保され、鳥獣侵入を防ぎやすくなり、農村部に人の気配が戻るといった副次的恩恵は非常に大きいものがある。</p> <p>昨年までは県の事業で、兼業農家を増やすことを目的とした「半農半X」を実施していたが、今現在、実施は市に任せられている状態かと思われる。</p> <p>今後「半農半X」のような兼業農家を増やす施策を市では検討しているか考えを伺う。</p> <p>② 農業者の農機具や資材購入に活用できる夢プラン応援事業だが、基本的に強化作物の生産者が対象になっており、それ以外の栽培作物に関しては、販売額が年間3,000万円を超えるあるいは目指せることが条件になっている。</p> <p>しかし、現在は農協出荷や契約栽培出荷以外にも多種多様な品目を、個人で簡単にネット販売でき、農業生産者としての形も多様化しており、この作物単位で3,000万円という数字にこだわる必要はない感じている。</p> <p>この事業について対象となる条件を、撤廃もしくは緩和を検討できないか考えを伺う。</p>				

令和7年第7回鹿角市議会定例会一般質問

順位	2	質問者	綱木 裕一	質問所要時間	45分	No.5
質問事項		質問要旨				
(3) 農業用機械施設等マーケット事業の再開について		<p>① この制度について、6月定例会答弁では、利用者が少なかったことが廃止の大きな要因だったと記憶している。令和元年度をもって廃止された事業だが当時コロナ禍だったということもあり、5年も経過すると状況も変わっている。今年だけでも引退する農家さんから資材や農地の引き受けの話も個人的にも数件あった。</p> <p>また、毎年5月くらいになると、金物回収業者が市内を回りはじめ、農業資材をトラックに満載し、中にはまだまだ使える物も海外に転売する風景を見る事も多々あり、その度に市内の農業者に渡つたらどんなに良いかと感じている。</p> <p>改めて、新規や既存の生産者だけではなく、兼業農家に対しても大きな支援となり、農業エコシステムの中核ともなり得るこの事業の再開を今一度検討できないか伺う。</p>				
5 少年議会の創設について	<p>(1) 先進事例を踏まえた市の検討状況について</p> <p>① 10月23日に市職員とともに山形県遊佐町の少年議会を視察し、また、会派視察として少年議会を創設した小野寺元町長にも設立当時と現在の想いについても伺うことができた。</p> <p>少年議会は、子供たちが自立的に考え、行動し、公共の意思決定の入口に立つことができる貴重な成長の場となり得ると考える。公共の課題を自ら発見し、仲間と共に解決策を議論し、意思決定のプロセスを体験する、現実に地域に実装されていくという経験は、若者の主体性や地域への関心を高め、将来の地域の担い手育成につながる。</p> <p>どれほど財政が逼迫していても、次世代の子供たちの育成は将来の地域の持続可能性を左右する「未来への投資」であると考える。</p> <p>こうした先行事例の視察を踏まえ、現在、市としてはどのような検討段階にあるのか、また設立に向けた課題や、進める上での方針性はどこにあるのかについて伺う。</p>					

令和7年第7回鹿角市議会定例会一般質問

順位	3	質問者	宮野 和秀	質問所要時間	30分	No.1
質問事項		質問要旨				
1 熊への対策と安全安心な市民生活について		① 熊による人身事故が多発しているが、生活の糧である農業、産業に経済的損失を及ぼしていることについて、今後どのように対処していくのか。また、市民生活の安全安心をどのように守っていくのか伺う。				
2 畜産業における肉用牛生産の担い手、労働力不足について		① 地域ブランドである「かづの牛」の生産が、担い手や労働力不足によって難しくなってきている。後継者や人材確保等の対策が急務であると考えるが、その対策について伺う。				
3 在宅当番薬局について		① 休日に在宅当番医を利用する際、当番医の近くにドラッグストア等がない場合、薬の購入が困難となる。そのため、当番医の近くに「当番薬局」が必要と考えるが、市の見解を伺う。				
4 豊真木沢川改修工事について		① 毎年の大雨により上流部が非常に荒れており、土砂が蓄積している。一部では水田耕作もできないような状態である。改修工事が必要と考えるが、対策を伺う。				

令和7年第7回鹿角市議会定例会一般質問

順位	4	質問者	丸岡 孝文	質問所要時間	30分	No.1
質問事項		質問要旨				
1 持続可能な鹿角市に向けて (1) 市財政について		<p>① 持続可能なまちづくりに必要な多くの課題解決には裏付けとなる財源が必要不可欠で、その財源を捻出するには、大なたを振り降ろすような住民向けサービスの縮小、変更も必要と考えられているのではと感じている。そこで、具体的に市民にどのようなことをお願いするのか。また、それを理解いただくために行政はどのような努力をされるのか。どちらも痛みを伴うことと考えるが、市民・市職員に求める具体的な内容と実施に向けての覚悟を伺う。</p>				
(2) 人口減対策について		<p>① 地方創生2.0で目指す地方の在り方の実現には、人材の交流、広域連携が不可欠だとされている。そこで本市が既に取り組まれている関係人口づくりについて伺う。</p> <p>(ア) 「関係人口」と言っても幅が広いため、市として関係人口づくりによる将来の鹿角の姿（「関係人口」によるビジョン）をどう描いての政策なのか伺う。</p> <p>(イ) 実現に向けて政策立案ではターゲットの絞り込みをされた上で、いつまでにここまで達成という戦略の下で取り組まれていると思われる。今までどのような取り組みを展開されたのか。その成果も併せて伺う。</p>				
(3) 新たな医療ビジョン策定について		<p>① 新たな医療ビジョン策定にあたり、以下について伺う。</p> <p>(ア) 今まで鹿角の中核病院の医療体制、医師の派遣などについて岩手医科大学に頼ってきたために、秋田の医療体制の中ではいまだに「鹿角は岩手」という考えが続いている。医師はじめ医療従事者の不足は岩手県も例外ではなく、医学部では受験に地域枠を設け、地域医療を支える人材の確保・囲い込みを行っている。そのような状況下では今後もかづの厚生病院からの常勤医の撤退が続くであろうことは容易に想像できる。鹿角市民は秋田県民である。県に対し窮状を訴え、支援を求めるることはもとより、情報の交換や実情打開のお願いが直接行える定期協議実施と支援依頼先が偏らないことを医療ビジョンに盛り込むべきと考えるが、市の考えを伺う。</p>				

令和7年第7回鹿角市議会定例会一般質問

順位	4	質問者	丸岡 孝文	質問所要時間	30分	No.2
質問事項	質問要旨					
	<p>(イ) 岩手県八幡平市田山地区では、ICT利用による医師の遠隔診療の実証を5年前から行っている。毎年、八幡平市メディテックバレーシンポジウムを開催し、実証の検証と本実施へ向けての課題について意見交換を行っており、今年は去る11月25日に開催された。田山地区では現在、遠隔診療に加え在宅診療から訪問看護まで遠隔で行っており、医療過疎への住民不安の解消につながっていることが報告された。</p> <p>秋田県では、秋田大学医学部附属病院と秋田県医師会が連携し、過疎地域の地域医療格差是正を目的としたオンライン診療の実証事業を実施し、8月には秋田県全域での運用を想定した2台目の医療MaaSを導入、医療過疎地への移動診療の実証が行われるなどICT活用による遠隔診療を目指す方向となっている。そこで作成する医療ビジョンにD to P with N（看護師）、D to P with D（かかりつけ医）による遠隔診療の実現、医療MaaS等による地域へ出向く診療の実現を目指すことなどICT活用の医療に取り組むことを盛り込むべきと考えるが、市の考え方を伺う。</p>					

令和7年第7回鹿角市議会定例会一般質問

順位	4	質問者	丸岡 孝文	質問所要時間	30分	No.3
質問事項		質問要旨				
2 鹿角市景観条例の改正について		<p>① 6月定例会の一般質問で「鹿角へ進出してくる再生可能エネルギー産業と共生共存できるエリアを定める鹿角環境・景観保護ゾーニングを早期に策定すべき」と鹿角市景観条例の改正について行政の考え方を伺ったが、市長からは条例の改正も環境・景観ゾーニングを行う考えもないとの答弁をいただいている。10月の決算特別委員会の商工費の質疑では出席委員から「新たに進出を検討している企業がある。民有の土地なので所有者が建設用地として提供する場合の判断基準となるものが無くハードルが高く苦慮している。上沼の場合もそうだが現在の鹿角市景観条例は県の条例を元に作られており、それを鹿角に見合ったような形で改正していただき、誘致をするに当たっての最低限の下地づくりというようなところ、そこら辺をお願いできないか」との意見があり、担当者からは「景観条例は県の条例を参考にしながら作成させていただきました。ただ、当時の状況と現在の状況ですか、産業的な部分も網羅していくない部分も若干あり、今後、関係部署と連携しながら、どういうものが鹿角市にとって有効なものなのかというようなところも含めて検討してまいりたいと考えております」と答弁されている。この答弁に際し、市長からは何も発言がなかったが、鹿角市景観条例については現在、また今後進出してくる企業産業を考慮し、鹿角市の持つ自然景観資源を守りながら産業と共存できる指針を示すものへ改正を行う検討をすると受け取ってよいか伺う</p>				
3 市民アンケートによる男女共同参画への市民意識について		<p>① 社会全体の多様性を認め合う第一歩とも言え、多様性を認める入口的考え方である男女共同参画への意識が市民アンケートでは「男女の地位は平等になっていると感じる割合」26.5%、「日常生活で性別役割分担意識を感じる割合」45.3%と市民生活に浸透していない結果となっている。このことについて、原因と意識向上対策について伺う。</p>				

令和7年第7回鹿角市議会定例会一般質問

順位	5	質問者	中山 一男	質問所要時間	60分	No.1
質問事項		質問要旨				
1 鹿角高校への支援策について						
(1) 生徒数の推移と支援策について		<p>① 市は、今後の鹿角高校の生徒数の推移について、どのように捉えているのか。また、市外出身生徒の受入支援と市内在住生徒への支援策について、何か検討されているものがあれば伺う。</p>				
(2) 廃校等の基準について		<p>① 県や学校側の考え方として、廃校となる基準はあるのか。また、市外からの入学希望者の受入基準などがあれば、何人まで受入可能なのか伺う。</p>				
(3) 魅力ある学びの場づくりについて		<p>① 第7次鹿角市総合計画基本構想案の中に、「高校教育との連携を図りながら、地域全体で魅力ある学びの場づくりを進めます」とあるが、具体的にどのような施策を考えているのか。また、高校教育との連携とは、鹿角高校そのものなのか、高校教育全般を捉えているものなのか伺う。</p>				
2 鹿角アメニティパークの施設整備について		<p>① 鹿角アメニティパークは、市民がスポーツを通じて体力の増進、健康維持を図り、世代を超えて交流する施設として大いに活用されているが、設置から30年以上が経過し、近年ではグラウンドコンディションの改善を要望する声も寄せられている。このことから、鹿角アメニティパークへの多目的人工芝グラウンドの整備を提案する。後期基本計画に搭載し、計画的に進めることで可能となると考えるが、市の見解を伺う。</p>				
3 子供の遊び場の充実について						
(1) 親水空間の設置について		<p>① 暑さ対策を兼ねて、水遊びの好きな子供たちのために、東山総合運動公園内にある大型遊具の敷地内に、噴水のような「親水空間」を整備してはどうか伺う。</p>				
(2) 室内施設の無料開放について		<p>① 熊の出没や悪天候により安心して遊べる場所がない子供たちのために、スポーツ施設等を無料開放できないか伺う。</p>				

令和7年第7回鹿角市議会定例会一般質問

順位	5	質問者	中山 一男	質問所要時間	60分	No.2
質問事項		質問要旨				
4 4つの世界級遺産について (1) 観光客へのPRについて		① 4つの世界遺産と併せて、高速道路の地理的優位性、四季折々の移り変わりの良さ、温泉と宿泊施設などのPRについて、一年間の鹿角をまとめて紹介し、年間を通じた観光誘客を図り、地域活性化に資する取り組みを検討してみてはどうかと考えるが、市の見解を伺う。				
(2) 雪の活用と本市へのアクセス対策について		① 雪の活用として、何か検討されている施策はあるのか。 また、インバウンド対策として、大館能代空港から本市へのアクセス手段の整備、東北縦貫自動車道の地理的優位性のアピールなど、総合的な対策が必要と考えるが、検討状況について伺う。				
5 鹿角市定期市場の活性化について		① 市として、定期市場の現状をどのように捉えているのか。 例えば、3と8の日にこだわらない土日祝祭日の開催、飲食コーナーの設置など、工夫しながら本市に合った施策を検討できないか。				
6 熊対策について (1) 猊友会員の待遇について		① 本市における猟友会員の現状の待遇について伺う。 また、県内でも各自治体で猟友会員の待遇改善を検討しており、本市でも猟友会員への支援増強を図るべきと考えるが、待遇改善を検討しているのか伺う。				
(2) 熊を人里に近づけない対策について		① 放置された果樹園や不耕作地、遊休農地が点在しているが、熊を人里に近づけない対策が必要な中において、このような事態について市はどう捉えているのか。また、対策は検討されているのか伺う。 土地を放棄している土地の所有者に対して、熊出没の状況を理解いただくため市から働きかける必要があると考えるがいかがか。				
(3) 国の「(仮称) 熊対策研究機関」の誘致について		① 国において熊対策の制度や対策等を専門に研究し、情報を全国に発信する機関として、「(仮称) 熊対策研究機関」を設置すること、また、それを本市に誘致することについて、知事や市長会、県選出国会議員等に要望してはいかがか、市の考えを伺う。				

令和7年第7回鹿角市議会定例会一般質問

順位	5	質問者	中山 一男	質問所要時間	60分
----	---	-----	-------	--------	-----

No.3

質問事項	質問要旨
(4) ガバメントハンターの設置について	① 国ではガバメントハンターについて人件費支援を検討しているようだが、本市では導入の考えはないか伺う。
(5) 緊急銃猟制度について	① 緊急銃猟制度について、どのような制度なのか改めて伺う。 また、本市での実績はあるのか伺う。
(6) 警察官のライフル銃による駆除対策について	① 警察官のライフル銃による駆除が可能となった経緯や派遣実績について、また、この措置は今年で終了するものなのか伺う。
(7) 自衛隊の支援活動について	① 派遣された自衛隊による支援活動の実績と、次年度以降の派遣の可能性について伺う。
(8) 有害鳥獣などによる農作物被害への支援策について	① 被害を直接被った方々に対し、今後も安心して営農を続けられるよう、補償等の支援策を検討しているのか伺う。 また、国において公的な支援策を講ずるよう、知事や市長会等を通じて国に要望してはいかがか。
(9) 人身事故被害者への対応について	① 熊による人身被害を受けた場合、秋田県市町村総合事務組合の「ともすけ共済」の支給対象となるよう市長会に働きかけてはどうか。 また、市では見舞金等について検討する考えはないか伺う。
(10) 熊による影響調査について	① 市街地への熊出没によって、日常の生活を送る上での市民の不安は大きい。市民に対して何の支援が必要なのか、何を望んでいるのか、実態調査による把握を行いながら支援策を検討すべきと考えるが、市の見解を伺う。

令和7年第7回鹿角市議会定例会一般質問

順位	6	質問者	湯瀬 弘充	質問所要時間	45分
----	---	-----	-------	--------	-----

No.1

質問事項	質問要旨
1 有害鳥獣対策について (1) 熊問題への対策と過剰報道による観光への影響について	<p>① 熊の異常出没により市民生活や観光に大きな影響が出ている。現在、市として熊対策にどのくらいの予算を計上しているか。また、どの部分に不足が生じているか伺う。</p> <p>② 秋田県で運用している「クマダス」は、その財源をふるさと納税で実施している。さらに、にかほ市や鶴岡市、羅臼町でも「熊対策に特化したふるさと納税」を開始している。これから更に実施する自治体も増えてくると考えるが、本市ではどのように評価しているか。また、今後実施する考えはあるか併せて伺う。</p> <p>③ 鹿角市緊急ツキノワグマ誘引樹木伐採事業費補助金は大変好評であった。伐採した総本数と、その事業効果についてどのように評価しているか。また、来年度以降も補助金を実施する予定はあるか併せて伺う。</p> <p>④ 通学路および学校内外において、市が講じている熊対策と、今後強化すべき即効性のある具体策(例えば電気柵の設置や警備員の設置など)について、どのように考えているか伺う。</p> <p>⑤ 熊のニュースが続き、鹿角への旅行をためらう観光客が増加していると宿泊業関係者から伺った。メディアによる過剰報道や誤解を招く情報に対する市の危機認識と、観光への風評被害を抑えるための情報発信の在り方についてどう考えているか伺う。</p> <p>⑥ 正確な出没情報、安全に観光できるエリアの周知、ガイド付き観光の強化など、観光客への悪影響を最小限にするための対策を今後強化しなければならないと考える。本市はこうした対策についてどのような考えがあるか伺う。</p>

令和7年第7回鹿角市議会定例会一般質問

順位	6	質問者	湯瀬 弘充	質問所要時間	45分	No.2
質問事項		質問要旨				
2 「魅力ある鹿角の情報発信に関する提案書」について (1) 提案書についての評価と第7次鹿角市総合計画後期基本計画策定への反映について		<p>① 市当局と市議会あてに提出があった「魅力ある鹿角の情報発信に関する提案書」において、鹿角市の強みである豊かな四季、ユネスコ無形文化遺産や大湯環状列石をはじめとする歴史遺産、十和田八幡平国立公園などの自然環境、アクセスの良さ、災害の少なさ、スポーツ施設の充実など、多様なストロングポイントを横断的に整理し、一体的に発信していく必要性を指摘された。一方で、現状では観光、農業、商工、宿泊、文化などの各団体がそれぞれ個別に情報発信を行っており、市の魅力が市外に十分届かない構造的課題が継続している。こうした内容は、私自身も同じ考えであり、今後策定される第7次鹿角市総合計画後期基本計画において、こうした市の強みを整理し、戦略的に政策体系へ反映することは極めて重要であると考えるが、以下を伺う。</p> <p>(ア) この提案書をどのように評価しているか伺う。</p> <p>(イ) 本市が有する「四季」「ユネスコ遺産」「自然環境」「アクセス」「災害の少なさ」「スポーツ施設の充実」などのストロングポイントを市としてどのように整理・定義し、第7次鹿角市総合計画後期基本計画の基本目標や分野別計画の中に位置づけしていく考えか伺う。</p> <p>(ウ) 情報発信の一元化に向け、観光・農業・商工・宿泊・文化等を束ねる横断組織、いわゆる「情報発信専門機関」の設置、もしくは既存組織の機能強化による代替など、体制整備について市の考えを伺う。</p> <p>(エ) SNSや動画配信、インフルエンサーの活用、多言語対応等を含め、年代層やターゲット別（子育て世帯、若者、インバウンド、企業等）に最適化した情報発信戦略をどのように構築し、後期基本計画に位置づけていく考えか伺う。</p>				

令和7年第7回鹿角市議会定例会一般質問

順位	6	質問者	湯瀬 弘充	質問所要時間	45分	No.3
質問事項	質問要旨					
	(才)「自然災害が少ない」「アクセスが良い」という強みや、スポーツ施設の充実を生かし、企業誘致やワーケーション誘致、長期滞在型観光、移住・定住促進、関係人口の拡大などにどのようにつなげていくのか。後期基本計画における具体的な方向性を伺う。					

令和7年第7回鹿角市議会定例会一般質問

順位	7	質問者	浅石 昌敏	質問所要時間	30分
----	---	-----	-------	--------	-----

No.1

質問事項	質問要旨
1 総合運動公園の利用料金について (1) テニスコート利用料金について	① 総合運動公園テニスコートは利用料金として、1面1時間250円、1日につき2,000円を支払うこととなっています。 市内中学生・高校生の保護者から「部活動の延長としてテニスコートを使用していることから市内の中学生・高校生は無償にできないか」との要望がある。 市としては、維持費等に費用が必要とは理解できるが、市内の中学生・高校生に限り、利用料金を無償にできないか伺う。
2 危機管理について (1) 市役所前の河川の管理について	① 平成25年と令和4年の大雨により市役所前の旧福士川が氾濫し、警察署前の道路が通行止めとなつた。現状を見ると土砂が増え、大雨になった場合、また氾濫する恐れがある。市役所・警察署・消防署・病院が集約する場所を流れる川の浚渫等の管理が必要と考えるが、市の考えを伺う。
3 農業問題について (1) 公務員の副業について (2) 水田活用の直接支払交付金について	① 公務員は原則として副業が禁じられているが、農業者の高齢化と人手不足の対応のため、湯沢市では令和5年から1次産業などに限って職員の副業を可能にする制度を始めている。鹿角市でも職員の副業について同様の制度を整備できないか、市長の考えを伺う。 ① 令和4年に農林水産省から「今後5年間で1度も水張りしない農地は水田とみなさない」との発表があった。また、同時に国からは畑地化促進事業が示され、農家はそれぞれ苦慮しながら取り組みを進めてきた。しかし、令和7年の春、農林水産省は突如として「畑地化促進事業は残すが、水張はしなくてもよい」と、方針を一変させた。このことから、以下について伺う。 (ア) 国の取り決めではあるが、水田で畑作を行っている農家は疑問に感じている。5年間の水張りルールについて、なぜ国は急に方針を変更したのか、市の見解を伺う。

令和7年第7回鹿角市議会定例会一般質問

順位	7	質問者	浅石 昌敏	質問所要時間	30分
----	---	-----	-------	--------	-----

No.2

質問事項	質問要旨
4 鳥獣被害について	<p>(イ) 令和6年に畠地化促進事業を実施した水田について、畠地化後6年目以降はどのような取り扱いになると予測されるか、市の考えを伺う。</p> <p>(ウ) 畠地化後6年目以降、交付金による支援がなくなれば経営に大きな支障が生じ、借用地を返却しなければならないなどの事情から、多くの耕作放棄地が生まれるおそれがある。その場合、市として何らかの対策を考えているのか伺う。</p> <p>① 令和7年は熊による人身被害・農作物の被害が多発した。子供たちは屋外で遊ぶことができず、通学にも多くの問題がある。また、本市の産業面では、1,100万円余りにも及ぶ農作物被害が発生しているほか、風評被害により観光面にも影響が出ているとの声もある。 行政だけの問題ではないが、今後どのような抜本的対策を考えているのか伺う。</p>

令和7年第7回鹿角市議会定例会一般質問

順位	8	質問者	安保 真希	質問所要時間	30分	No.1
質問事項		質問要旨				
1 空き家対策について						
(1) 空き家の発生予防の取り組みについて		(1) 近年、熊の出没が過去にない件数となる中、空き家が熊を引き寄せる要因となる事例も見られる。また、空き家は景観を損なうだけでなく、動物が棲みつくなど多様な問題を引き起こす。今後は発生後の対策だけでなく、空き家の発生予防にも取り組む必要があると考えるが、空き家の発生予防に関する本市の現行の対策と今後の対策案について伺う。				
(2) 移住者向け空き家購入時のトイレ水洗化補助について		(1) 空き家の流通や移住促進において、水回り設備は大きな判断材料となる。鹿角市は水洗便所普及率が低く、汲み取り式からの改修には高額な費用負担が課題である。現行の移住者向け補助制度では十分とは言えず、特に若者向けの移住促進の観点から、トイレのリフォーム補助の拡充について市の考えを問う。				
(3) 空き家の利活用について		(1) 他自治体では、空き家を会員制民泊や公営住宅、高齢者シェアハウスとして活用するほか、コミュニティミュージアムとして地域資源化する事例も見られる。多拠点居住の広がりや関係人口の創出、市出身者の帰省拠点としても効果が期待できると考えられる。鹿角市として、過去に実施した空き家の活用事例と、空き家利活用に関し検討している取り組みや今後の方向性について伺う。				
2 ふるさと納税について						
(1) 熊対策に特化したふるさと納税について		(1) 熊対策を目的としたふるさと納税を導入する自治体が全国で増えている。これらは地域の安全対策に必要な財源を確保するとともに、市民や支援者が取り組みに参画できる仕組みとして有効である。鹿角市においても、熊対策に特化したふるさと納税を検討する考えがあるか伺う。				
3 国際交流について						
(1) ショプロン市との国際交流の今後について		(1) 先般、ショプロン市行政訪問団の受け入れがあったが、行程はタイトであり、市民への周知も十分でない印象を受けた。また、長年続けているショプロン市への語学指導員派遣についても、地域還元が見えにくい現状である。本市の厳しい財政状況を鑑みると、交流事業の精査が必要と考える。市長トップ会談の具体的な内容、語学指導員派遣の必要性、今後の交流の方向性について伺う。				

令和7年第7回鹿角市議会定例会一般質問

順位	8	質問者	安保 真希	質問所要時間	30分	No.2
質問事項		質問要旨				
(2) CIR（国際交流員）の再配置検討について		① 国際感覚を育むには日常的な交流が不可欠である。本市では過去に国際交流員が市民と交流し成果を上げていた実績がある。地域交流や海外発信を担うCIRの役割は大きく、今後国際交流員の再配置を検討する考えがないか伺う。				
4 ALT（外国語指導助手）の雇用体制について		① ALTは教育の質を左右する重要な人材であるが、JET・民間派遣とともに任期が短く、待遇面も安定しない。以前、ALTが鹿角市での継続勤務を望んだものの、制度上認められなかつたという話も伺っている。長期的人材確保や教育の一貫性向上のため、派遣終了後も本市で働きたいALTを直接任用する制度導入を検討できないか伺う。				
(1) ALTの直接任用について						

令和7年第7回鹿角市議会定例会一般質問

順位	9	質問者	奈良 明日香	質問所要時間	30分
----	---	-----	--------	--------	-----

No.1

質問事項		質問要旨
1 無痛分娩に関して (1) 無痛分娩費用補助制度導入に関する市の見解について		<p>① 分娩可能な産婦人科がない鹿角では、市外の病院での出産を余儀なくされているが、それであれば、市内に産院がなくとも、安心して子供を産める、産みたいと思える体制作りが不可欠である。秋田県内ではどの自治体も無痛分娩への補助を設けていないが、だからこそ鹿角市で補助を設け、安心して子供を産める環境を作ることに意義があると考える。子育て世代の経済的・精神的負担を軽減し、安心して出産できる環境を整備するため、無痛分娩費用への補助制度を設ける考えがあるか、市の見解を伺う。</p>
(2) 無痛分娩の勉強会について		<p>① 無痛分娩は世界的に多数の国で利用されているものの、日本ではまだまだ普及していない。普及が遅れている背景としては、金銭面のほかにも痛みを我慢することを美德と感じる文化的背景や、麻酔科医の不足、無痛分娩を導入できる施設が少ないなどの医療体制の問題点もあるが、そもそも無痛分娩への理解度が低いという根本的要因も大きいと考える。メリット、デメリットを含めた無痛分娩の知識を正しく学べる市民向け勉強会を開催することは、出産への関心を高めるきっかけになると思うが、このような勉強会を開催する考えがないか、伺う。</p>
2 小中学校統廃合に関する鹿角市の考え方及び展望について		<p>① 少子化の進行により、本市においても小中学校の統廃合は不可避な課題となっている。市は今年10月に保護者アンケートを実施したが、統廃合は学校教育と地域社会に甚大な影響を与えると考える。このことから、小中学校の統廃合に関する市としての現時点での考え方及び保護者アンケートの結果を踏まえた今後の計画やスケジュールについて伺う。</p>

令和7年第7回鹿角市議会定例会一般質問

順位	9	質問者	奈良 明日香	質問所要時間	30分
----	---	-----	--------	--------	-----

No.2

質問事項	質問要旨
3 小中学校でのクマ対策について (1) 中学校での携帯電話の所持について	<p>① 現在、本市では熊の出没状況が緊迫し、生徒の登下校の安全確保が喫緊の課題となっている。急な送迎が増加しているが、措置が終了した後も、通学時の安全に対する保護者の不安は解消されない。また、現状のスクールアプリによる連絡手段は、学校から保護者へ通知するものであり、保護者と生徒が緊急時に直接、迅速に連絡を取り合うことは困難である。文部科学省では中学校の携帯電話の持ち込みは原則禁止とされているが、規定する「携帯電話を緊急の連絡先手段とせざるを得ない場合その他やむを得ない事情」に該当すると考える。</p> <p>このことから、生徒の安全確保及び保護者の安心のため、厳格な運用ルール（学校による預かり等）を前提とした上で、中学校における生徒の携帯電話の例外的な所持を許可することについて、市として具体的な検討を行う考えがあるか伺う。</p>
(2) 熊問題長期化に伴う、児童・生徒の心身の健康維持と屋外授業・活動に関する対策について	<p>① 緊迫した熊の出没状況の影響で、体育の授業や休日の屋外活動が継続的に制限され、児童・生徒の心身の健康への影響が懸念される。</p> <p>このままでは、体力低下やストレス増大を招き、教育活動にまで影響が及びかねない。</p> <p>保護者、教育現場、地域の方々が協力し、大人による見張り等の安全対策を講じるなど、長期化する制限状況下において、児童・生徒が屋外で活動し、心身の健康を維持するための具体的な対策について、市としてどのような考えか伺う</p>
4 義務教育におけるクロスカントリースキー用具の購入・レンタル補助等に関する保護者負担軽減について	<p>① 「スキーと駅伝のまち」である本市において義務教育で必修のスキー授業は、用具購入などで保護者の経済的負担が大きいのが現状である。6月定例会の際の答弁では、現在、実施されているスキー用具のレンタルやバス送迎などの補助は、主にアルペンスキー用具を対象としており、小学校低学年や、継続してクロスカントリーを行う児童が必要とするスキー用具は補助の対象外となっていると認識している。</p> <p>児童のスポーツ振興と保護者負担軽減のため、クロスカントリースキー用具の購入またはレンタルに対する補助など、何らかの支援が現在あるか。また、ない場合は新たに補助を設ける考えはあるか、市の見解を伺う。</p>

令和7年第7回鹿角市議会定例会一般質問

順位	9	質問者	奈良 明日香	質問所要時間	30分	No.3
質問事項		質問要旨				
5 市長が取得した育児休暇の在り方と育児休暇制度に対する認識について		<p>① 市長が7月に取得された5日間の育児休暇は、育児推進の意識改革の観点から大変評価できる。しかしながら、休暇期間中に市内外のイベントへ市長が一人で参加したり、挨拶をしたりする場面を複数回確認しており、これは育児休暇の本質と取得された行動に齟齬が生じていると考える。このような行動は、「育児休暇を取得したとしても、休暇中も仕事をする必要がある」という誤った認識を職員や市民に与える恐れがある。育児休暇制度及びその取得の意義について市長の認識を伺う。</p>				

令和7年第7回鹿角市議会定例会一般質問

順位	10	質問者	成田 哲男	質問所要時間	30分	No.1
質問事項		質問要旨				
1 こども計画について		<p>① 子供や子育て家庭を取り巻く状況で、不登校児童・生徒の推移は年々増加しているが、このことについてどのような対応をしているか伺う。</p> <p>② 子育て短期支援事業の利用実績を伺う。またその状況に対し、どのように分析しているか伺う。</p> <p>③ こころの健康づくり推進事業で、児童・生徒への講座等を実施することでどのような効果が得られているのか伺う。</p>				
2 空き家対策計画について		<p>① 市内の空き家状況について、5年ごとに行う実態調査の結果、増加傾向にある。空き家の所有者に対して指導等をしていると思うが、それに対する所有者の対応状況について伺う。</p> <p>② 空き家の解消、利活用のために、所有者と空き家を利活用したい民間事業者等に、所有者の許可を得て情報を提供する制度が他市で運用されていると聞く。本市でも創設する考えはあるか伺う。</p>				
3 ツキノワグマ被害防止等について		<p>① 県が今年度から実施する緩衝帯の整備において、管理強化ゾーンを設けることを市が主体となり行うことだが、本市の状況について伺う。</p> <p>② 9月から緊急銃猟制度が始まった。県内でも実施されているが、その際の発砲で人身や物損事故があった場合の責任の所在等について伺う。</p>				
4 ごみ処理の広域化について		<p>① 大館市・鹿角広域行政組合ブロックごみ処理適正化協議会で、処理体制の構築のため「サウンディング調査」が8月に実施されたようだが、調査内容を含め今後の方向性について伺う。</p>				

令和7年第7回鹿角市議会定例会一般質問

順位	11	質問者	保田 直美	質問所要時間	30分
----	----	-----	-------	--------	-----

No.1

質問事項	質問要旨
1 飼い猫の正しい飼い方の啓発と野良猫対策について (1) 飼い猫の適正飼育の重要性(啓発)について	<p>① 環境省の「家庭動物等の飼養及び保管に関する基準」により、飼い猫は室内飼育に努めることを基本としたうえで、やむを得ず外で飼育する場合は、感染症などの疾病防止、事故やけがなどで健康や安全が脅かされないこと、鳴き声や糞尿など周辺地域住人の日常生活に支障を及ぼさないよう飼い主が務める必要がある。しかし、現時点では市民に猫の適正飼育が浸透しておらず、外猫が問題となっている。また、飼い猫を完全室内飼育にすることは猫同士の感染症のみならず、人に移る人畜共通感染症を抑制する効果もある。猫の完全室内飼育は、猫によって引き起こされている事案の改善のためにも必要不可欠のものであり、猫の外飼いが続くことで今後さらに大きな問題に発展する危険性がある。</p> <p>以上のことから、広報での猫の適正飼育に関する継続的な周知及び必要性を理解できる内容の掲載が必要と考えるが、効果のある呼びかけについて市の考えを伺う。</p>
(2) TNR活動の促進のための補助制度について	<p>① 保護猫活動の一つにTNRというものがあり、「捕まえる、不妊手術をする、もと居た場所に戻す」が一連の流れになっている。これは地域猫活動の基本となる考え方で、野良猫の繁殖を抑え、1代限りの命を地域で管理していく活動であり、頭数を減らしていくことを目的としている。</p> <p>実際に行っているエリアでは野良猫に不妊去勢手術をすることで、子猫の頭数を減らし、一定の成果を挙げている。不妊手術は一般的な動物病院でメスは4万円ほど、オスは3万円ほどと高価なもので、TNRは同じエリアで生活している猫すべてに行うことで効果を発揮できるものであることから、多くの頭数を行うと、活動家への大きな負担になる。東北でも野良猫への不妊手術の助成を行っている自治体もあり、秋田県ではにかほ市や仙北市でも補助制度がある。</p> <p>市がTNR活動の促進のために猫の不妊手術費用の助成を行うことは、重要な取り組みだと考えるが、市の考えを伺う。</p>

令和7年第7回鹿角市議会定例会一般質問

順位	11	質問者	保田 直美	質問所要時間	30分	No.2
質問事項		質問要旨				
2 熊出没による学校・通学路等における安全確保について (1) 危機管理の段階的な管理体制について		① 文部科学省では、熊出没への対応を学校の危機管理の一部として位置付けているが、出没場所の距離や危険度に応じた段階的な対応基準は明確でない。本市として、学校周辺・隣接自治体・森林部など、出没状況に応じて段階的なリスク管理を行う考えがあるか伺う。				
(2) 熊出没情報をどのように判断基準に反映させるかについて		① 熊の出没情報を周辺自治体含め、教育委員会・警察・消防などの関係機関でどのように共有し、登下校の可否や避難判断の基準に反映しているか伺う。				
(3) 登下校時の安全確保について		① 登下校時の安全確保については保護者による送迎やバス運行だけでなく、音を活用した対策として熊鈴を携行しているが、放送設備を利用して学校周辺で朝夕に音を流す取り組みを実施するなど、新たに低コストで現実的な対策を、各校の計画またはマニュアル等に位置付ける考えがあるか伺う。また、そのほかの対策を講じる考えがあればお示しいただきたい。				
3 本市のいじめの実態把握と早期対応について (1) 本市におけるいじめの現状と取り組みについて		① 近年、全国的に不登校やいじめ、暴力行為など生徒指導上の課題は深刻化しており、教育現場だけでなく、家庭や地域を含めた社会全体の問題として認識する必要がある。いじめは不登校の原因となる深刻な問題である。NHKによると秋田県内の令和6年度の国公立小中学校のいじめの認知件数は前年度よりも45件減少したものの4,479件と依然高止まりしている。 本市におけるいじめの現状及びどのように取り組みを行っているか伺う。				
(2) 本市における実態把握と検証状況について		① 全国の約84%の学校がいじめを認知している一方で、約16%が「認知ゼロ」と回答している。本市における認知状況、また「ゼロ校」の有無や、全国平均より認知件数が著しく低い学校の場合の検証状況を伺う。				

令和7年第7回鹿角市議会定例会一般質問

順位	11	質問者	保田 直美	質問所要時間	30分	No.3
質問事項		質問要旨				
(3) 本市の学校におけるいじめの早期対応について		① アンケート調査などの形式的な把握に陥らないために日常的な観察や面談を通じた早期発見体制をどのように強化されているか。また、令和6年度のいじめの解消率は全国で76.1%、解消に向けて取り組み中が23.7%だが、本市ではどのような成果と課題があるかを併せて伺う。				

令和7年第7回鹿角市議会定例会一般質問

順位	12	質問者	赤坂 熱	質問所要時間	30分	No.1
質問事項		質問要旨				
1 市職員の働き方改革について						
(1) 職員の服装・髪型・髪色等の自由化について		<p>① 民間では、採用機会の確保や職員のモチベーション向上による業務効率向上のため、業務に支障のない範囲で多様な価値観を認め、服装や髪型、髪色等の制限をなくす企業も増えている。</p> <p>市においても職員の業務効率を上げ、今後の優秀な人材を確保する観点からも取り組むべきと考えるが、市の考えを伺う。</p>				
(2) 時間外労働の管理と職員の意識改革のための取り組みについて		<p>① 教職員の働き方改革は国主導で進められている一方で、一般職の公務員の働き方改革についてはまだまだ進んでいない現状にあるように思われる。事務分掌次第ではあるが、同じ部署でも時間外労働が多い職員とそうでない職員があり、特定の職員に負担が多い状況にあると感じている。</p> <p>本来、勤務時間の中で業務を終了することが望ましいのであって、時間外勤務が発生していることは職員の労働時間マネジメントに問題があると捉えるべきではないか。</p> <p>そこで、勤務時間を管理する立場の職員の人事評価における部下職員の時間外管理を評価項目に取り入れ、業務内容の見直しと効率化を進め、積極的に時間外労働を減らすよう取り組むべきと考えるが、市の考えを伺う。</p>				
(3) 週休3日制の導入について		<p>① 一部自治体での先行事例もある制度だが、多様な働き方を可能とすることで職員のキャリア形成や職務遂行力の向上を図るために、同制度の導入についての市の考えを伺う。</p>				
(4) 地域貢献活動休暇制度と地域貢献に資する兼業許可条例の制定について		<p>① 総務省ではすでに令和5年12月の通知により、地方自治体職員が地域貢献活動等に参加するための休暇制度について、条例により制度創設できることと通知している。</p> <p>また、令和7年6月には地方自治体職員の兼業に関する通知も発出しており、環境整備を行うよう促しているが、これらの制度設計について現段階での進捗と今後の展望について伺う。</p>				

令和7年第7回鹿角市議会定例会一般質問

順位	12	質問者	赤坂 熱	質問所要時間	30分
----	----	-----	------	--------	-----

No.2

質問事項	質問要旨
2 熊出没下における子供たちの安全確保について (1) 学校周辺に出没した際の安全確保について	① 現状、熊が学校敷地内や周辺に出没した場合の対応は保護者の車による送迎が中心となっているものと思うが、車がない家庭や仕事の都合で対応が難しい家庭への対処について、他自治体ではスクールバスによる送迎やタクシー利用家庭への補助、あるいは学校での預かり等により対応している。教職員の負担も増大し、保護者も仕事を何度も途中で抜けたりすることで負担を感じていたり、学校周辺の交通渋滞が問題になっていると認識しているが、本市の状況と今後の恒久的対策について伺う。
3 文化財活用地域計画について (1) 地域計画の策定状況について (2) 外貨を稼ぐための文化財活用を目標とした組織改編について	① 現在策定中の文化財保存活用地域計画は、文化財の将来にわたる保存伝承と、維持管理財源確保のため文化財の活用を推進することがその趣旨であると理解しているが、本計画策定の進捗状況と目指すべき目標について伺う。 ① 厳しい財政状況の中、保存や伝承への財政支出が先細ることで文化財消失の懸念がある。文化財の魅力を向上させ、観光や他産業との連携により外貨獲得のためのコンテンツとして文化財を活用できる環境整備として、有形文化財でのカフェ・飲食、物販等併設や、無形文化財の観光コンテンツとの連携強化こそが現在求められていると考える。 文化財の保存は現在教育委員会が所管であり、活用を担う観光分野は市長部局となっている。この組織構造が観光と文化財活用の連携の妨げになっていると考えられる。他自治体では観光と文化を同一部署に置いている自治体も少なくない。最近ではスポーツも外部から人を呼び込むための観光コンテンツと捉え、観光・文化・スポーツをまとめている組織もある。文化財の活用計画策定を契機に、保存は従来の教育委員会へ残し、活用は新たに文化財・スポーツも含め観光コンテンツとして外部からの誘客に活用するための組織改変が必要と考えるが、市の考えを伺う。

令和7年第7回鹿角市議会定例会一般質問

順位	13	質問者	栗山 尚記	質問所要時間	60分
----	----	-----	-------	--------	-----

No.1

質問事項		質問要旨
1 政府補正予算案への対応について (1) 重点支援地方交付金について		<p>① 高市新政権による経済対策の裏付けとなる2025年度補正予算案が閣議決定された。18兆円を超える歳出額のうち経済対策の柱である「物価高騰対応」8兆9千億円の中に自治体が自由に使える「重点支援地方交付金」2兆円を計上している。4千億円の食糧品高騰対策の特別枠があるものの、その他は各自治体の創意工夫によるより効果的な政策実行力に委ねられている。本市としての現時点でのプランについて伺う。</p> <p>加えて、水道光熱費関連のガソリン・軽油・電気・ガス・水道等は国の施策により値下がりが期待できるが、寒冷地である鹿角市において冬季に大きな需要が発生する灯油代に対する支援は欠かせない物価高騰対策の一つと思うが市の考えを合わせて伺う。</p>
(2) 熊対策について		① 補正予算案の中には熊被害の拡大等に対応する約7千億円の予備費も確保されている。歴史上、例を見ない熊被害に見舞われている本市として、熊出没による悪影響が飲食店をはじめとする売り上げ減少にまで及んでいる中、熊対策の今後の政策についてどういった内容を期待し要求していくのか伺う。
(3) 医療・介護分野について		① 補正予算案には医療・介護分野に対する1兆4千億円の予算が計上されている。職員の賃上げや物価高騰対策・施設整備等が主なものだが、介護・医療分野での人材確保が大きな課題となっている本市において、この予算を確実に職員の賃上げにつなげていくことが望まれる。これに対し市としてどういった働きかけに務めていくのか伺う。
2 学校教育環境について (1) 不登校児童生徒数について		① 文部科学省の調査の結果、不登校児童生徒数は12年連続増、過去最多の35万人を超えた。鹿角市内においての現状、不登校児童生徒数を伺う。合わせて不登校継続率や新たに認知された児童数などのほか、不登校の原因などの詳細についても伺う。

令和7年第7回鹿角市議会定例会一般質問

順位	13	質問者	栗山 尚記	質問所要時間	60分	No.2
質問事項		質問要旨				
(2) 不登校対策について		① 不登校の原因や状況が十人十色の中、鹿角市においては「こもれび教室」の開設やＩＣＴを活用した個々に応じた支援を行うなど様々な対応をしているが、多様化していく不登校への対応としてはまだまだできることがあると考える。人材確保や予算確保など、市単独では限界がある要素については、国や県へのより強力な要望が必要であり、県外も含めた広域での体制づくり等、これまでにない新たな取り組みも必要と思うが、今後の取り組みについて伺う。				
(3) スキー授業実施状況について		① 「スキーと駅伝のまち」を標榜する当市の学校において、スキー授業がなくなって良いのかという多数の声が聞こえてくる。そこで、現状の市内学校におけるスキー授業の実施状況を伺う。				
(4) スキー授業の今後について		① 当市は市内にスキー場を3か所所有し、用具一式のレンタル体制も整っている。更には、スキー関係者の大会開催への強力なバックアップやスキー用具のスポーツ少年団バザーへの取り組み等、他地域に比べて充実した環境が整う中、鹿角で生まれ育った証として郷土愛を育むためにもスキー授業の実施は、鹿角での教育において大切にしたいポイントと捉える。ただ、大人による一方的な押し付けになつてはいけないため、子供たちの意向調査も実施すべきと考える。今後のスキー授業に対する市の考えを伺う。				
(5) 熊対策に関する環境整備について		① 子供たちの安全を確保するために、熊の出没に対する学校現場の懸命な対応に感謝しかない。今後も安全確保のための多くの取り組みが望まれるが、ハード面の対応として、来年度以降、高温期の低層部分の窓やドアを開けての授業実施が困難と思われる体育館や特別教室への空調設備の設置、加えて熊対応により圧倒的に増えた車での通学送迎の際に必要とされる乗降スペースの確保や安全対策など、整備には大きな予算が必要とされるが、対応は必須と捉える。取り組むべき他の課題も多いと思うが、県や国の参画も強く要望し確実に解決すべき課題と思うが、考えや計画を伺う。				

令和7年第7回鹿角市議会定例会一般質問

順位	13	質問者	栗山 尚記	質問所要時間	60分
----	----	-----	-------	--------	-----

No.3

質問事項		質問要旨
3 地域間交流について		
(1) ショプロン市との交流について		① 9年ぶりに行政視察団の来訪が実現し、ハンガリー国内においても両市の姉妹都市提携交流が高評価を受けるなど長年の交流が少しずつ実を結ぶ形となり、今後の更なる関係進展に期待が出てきた。市では、特産品やワインなどの食文化を活かした交流展開を進めていくことだが、オーストリアをはじめとする複数の国境の近くに位置するショプロン市にはさらに大きな可能性を感じる。交流の継続を今後の両市の経済発展につなげ、ワインワインの関係を築くためにも、さらに積極的な事業展開を望むが、市の考えを伺う。
(2) 葛飾区との交流について		① よつぎ小学校との交流に始まり「男はつらいよ第35作」のロケ実施をきっかけに続く「寅さんサミット」への参加、「キャプテン翼」作者高橋陽一先生との関わりによるスポーツ交流も継続され、当市と葛飾区との良好な関係が深まっている。これまで色々な事業が行われているが、早期にゼロカーボンを目指す本市の特徴を生かした経済交流や地域間災害協定など更なる両地域の利益につながる関係性の進展を目指すべきと思うが、市の考えや構想を伺う。
4 ふるさと納税について		
(1) 歳入確保につながるふるさと納税について		① 9月に行われた市議会全員協議会において鹿角市の財政見通しやかづの厚生病院への支援についての説明を受け、今後の鹿角市存続に対してさらに大きな危機を感じた。新たなアイディアや創意工夫による取り組みにより解決できる問題もあるが、きれいごとではなく財源がなければ解決できない課題が圧倒的なウェイトを占める。これまでの一般質問で取り上げてきた課題解決のためにも財源確保は欠かせない。そこで、短期間に飛躍的に財源確保を可能とするふるさと納税への更なる強力な取り組みが求められるが、来年度に向けた考え方と計画を伺う。